



詩篇第一巻
詩篇1-7篇

詩1巻集 神は天座と正者と悪者をさばく。 2012.6.13

<p>ABBA</p> <p>8. 2. 1.</p> <p>天座 (9. 4. 3.) 正悪 10. 6. 5. 11. 忘. 呼答 7.</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>祈り感謝 正悪をさばく</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>正悪をさばく 敵と答える</p>	<p>4. 5. 3. 王 敵</p> <p>あむれり 聖なる山</p> <p>6. 5. 王 敵</p> <p>あむれり 聖なる山</p>	<p>2. 1.</p> <p>子が座につく 国々に怒りのさばき 正者vs悪者</p> <p>7bd 7ac</p> <p>神の座に神が 国々に怒りのさばき 正者+正神の座</p>
<p>ABAB</p> <p>8. 2. 1.</p> <p>9. (4. 3.) 怒り 10.) 6. 5. 11. 御子 7. 義救</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>怒りにほろび 怒りにほろび</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>義にほろび 義にほろび</p>	<p>4. 3.</p> <p>義神私義 敵から救う</p> <p>7cd 7ab</p> <p>義神私義 敵から救う</p>	<p>2. 1.</p> <p>怒り 恐れ 正者悪者の道</p> <p>6. 5.</p> <p>怒り 恐れ 正者悪者の道</p>
<p>AABB</p> <p>8. 2. 1.) 祝福 9.) 4. 3.) 10.) 6. 5.) 義救 11.) 7.)</p>	<p>6. 5. 2. 1.</p> <p>義人の御子に救い 正者の祝福に救い</p> <p>7. 4. 3.</p> <p>義人の御子に救い 義者の御子に祝福</p>	<p>6. 5.</p> <p>敵から救う 義人の御子</p> <p>7b 7a</p> <p>義人の御子 敵から救う</p>	<p>2. 1.</p> <p>聖なる山から救う 正者は果て結ぶ</p> <p>4. 3.</p> <p>義者は祝福の山 聖なる山から救う</p>

詩篇第1巻の第1集、第1集の半分です。1から7まで。この7つの詩篇の分析をしているところです。6月13日のホワイトボードを見てくださいね。

1,2と7、4,3と5,6というABBAのつながり。1,2と5,6、4,3と7というABABのつながり。1,2と3,4、5,6と7というAABBのつながり。それを考えました。

それで、このホワイトボードでいうと、1,2と7の並行を見たときに7のところはACABDというふうに7を他のところで2つに分けているのですが、2つの分け方が、ABABという分け方で並行を見ているので、1と一緒に見ないといけないのは、7のaとc。2と一緒に見ないといけないのは、7のbとdというように分けられるものだと思います。3,4と7を比べるときは前半と後半、5,6と比べるときも前半と後半というふうに比べるものによって、比べているパーツが変わっています。

1,2と7のac、7のbdというふうに見たときには、それぞれ正しい者と悪者、正しい者と正しい神様、それが悪者と戦っている。国々に怒りのさばきが下されるという並行があるのですが、子が王座につく、神が座に帰るとい違いがあるというように、この表を見ていってください。正しい者が裁かれること、呼ぶと答えること、聖なる山、憐れみ、たくさんのキーワードの並行がありますので、ひとつひとつ確かめないとけません。

2012.6.14

詩巻1集 神は天座と正者と悪者をさばく

10. def... 8. 神神
高き路 神は高い 人と地の王座につける
みまじと忘れぬい

11. 9. abc...
天の王座とさばく 善座とさばく
善者を忘れぬ 救い出す

ABBA

8. 2. 1.

天座 (9. 4. 3.) 正悪
10. 6. 5.
11. 忘. 呼聲 7.

6. 5. 2. 1.
祈りし因く 正悪をさばく
7. 4. 3.
正悪をさばく 正者と答える

1: 2: → 7: → 8: → 11:
1: 1 幸いな者よ 淵
2: 12 身を避ける 幸いな者よ 淵
7: 1 身を避ける
7: 17 主の御名をほめた
8: 1 主の御名
8: 9 主の御名
11: 1 身を避ける

10. 8.
高き口と御名教い 高き口と御名のわざ

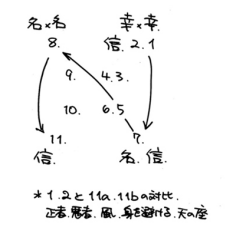
11. 9.
天の王座とさばく 善座とさばく

ABAB

8. 2. 1.

善座 (9. 4. 3.) 怒り
10. 6. 5.
11. 御名 7. 善教

6. 5. 2. 1.
怒りにおる居し 怒りにおる居し
7. 4. 3.
善におる教い 善におる教い



10. 8.
不幸者の悪者 御名をほめ歌う

11. 9.
正者と悪者 御名をほめ歌う

AABB

8. 2. 1. 祝福
9. 4. 3.
10. 6. 5. 善教
11. 7.

6. 5. 2. 1.
善人の守りと教い 正者の祝福と教い
7. 4. 3.
善人の教いと守り 善者の教いと祝福

1から11までが一つの流れであるということを見ようとするときに、第4集の32から41までのところも外側を囲んでいる詩篇が頭とおしり、おしりと頭というふうに連携していたよね。それと同じように、ABBAで見たときの1,2と7, 8と11、この外側の4つが流れとして流れているのでしょうかというのが、ここの右側にあるところです。

1と2は「幸いな者よ」で囲まれています。「幸いな者よ」で始まって、悪者が滅びる。2の最後も「幸いな者よ」で悪者が滅びる。2の最後が「主に身を避ける者は幸いです」という言い方なのですが、1から読んでいくと唐突なのですよね、「主に身を避ける」。なぜここで主に身を避けるという言い方をするのだろうかということですが、「主に身を避ける」というのは7篇の出だしです。それで、7篇の終わりは「主の御名をほめたたえる」というところで終わって、8篇は主の御名ということで、主の御名をほめたたえる言い方で最初と最後がクロスしていますね。11篇も「主に身を避ける」という言い方で始まっている詩篇だというような連携が、1,2,7,8,11のつながりを繋いでいるものだと思います。